＊研究授業からの学び

R５.７.７
No.１

令和５年　６月２２日（火）
第３学年　算数科　岩村　悠雅　　教諭
単元名　「わり算を考えよう」全７時間
小単元２　「余りを考える問題」（２時間）

＜単元でつけたい力＞

・わり切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度。【学びに向かう力、人間性等】

・わり切れない場合の除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。除法と乗法や減法との関係について理解すること。わり切れない場合の除法の計算が確実にできること。わり切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知ること。【知識及び技能】

・数量の関係に着目し、計算の意味や仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力。

・数量の関係に着目し計算を日常生活に生かす力。【思考力、判断力、表現力等】

本時の目標

余りのとらえ方について理解を深め、日常生活の場面に即して適切な答えを考えることができている。

本時の評価規準

余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。（発言・ノート）【思】

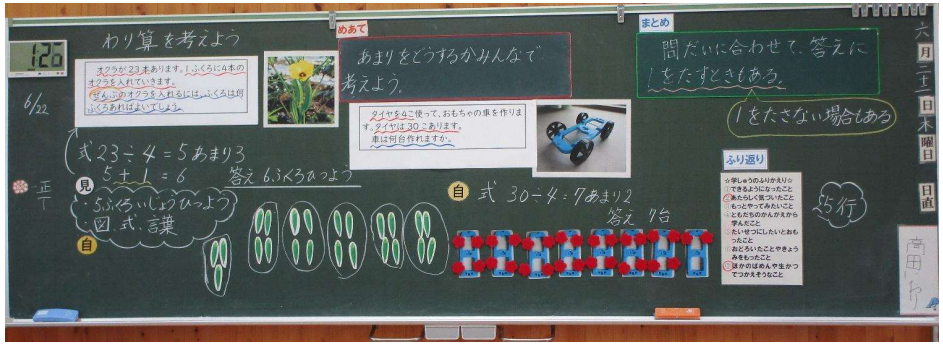
本時における見方・考え方

商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考えることができる。

本時の授業風景

23÷4＝5 あまり 3
だから５ふくろ必要
かな？でも、全部の
オクラを入れないと
いけないから…。

本時の板書



研究協議より（抜粋）

授業者より
〇余りの捉え方について理解を深める授業を目標にしていた。
〇手立てとして、オクラの袋づめの場面や車のタイヤの数をもとにしてできる車の台数など、生活に関係する課題設定ができた。
●まとめで、どのように提示したらよかったのか。
●ペア対話で全体に広げることができたらよかった。

参観者より
〇子どもたちが積極的に発言し、がんばっていた。
〇図を使って説明することができていた。
〇生活に関係する課題設定がよかった。
〇タブレットを活用することで、時間短縮になってよかった。
●授業で気づいたことを出させてまとめるとよい。
●まとめる時のキーワードとなる言葉を、板書に残すとよいのではないか。
●言葉の式にまとめると、わり算に導きやすい。
●めあてやまとめを児童が考え、引き出させたい。
●目的意識を持たせるといい。

宮崎指導主事より【西部教育事務所】
・個人思考がよくできており、自分なりの考えをしっかりと持つことができていた。
・どう子どもに考えを出させて対話させるのかが大事。問題場面をみんなで考えられる場の設定ができていた。
・子どもから「オクラを食べたい」という声が聞こえていたため、３個の余りをおいておくのかどうするのかを考えさせるなど、余りをどうするかについて更に考えさせることもできたのではないか。
・余りを入れるか入れないか分からない子どもの立場に立って教師が言葉がけすることで、更に対話につながり深い学びとなるのではないか。
・一般化し、いつでも使える力をつけることが大事。

授業者のリフレクションより
・子どもたちは、これまでに積み上げてきた図、式、言葉を使って、自分の考えを書いたり友達に伝えたりしながら、本時でも一生懸命課題解決に取り組むことができていた。
・ペアでの対話の時間を設けることはできていたが、全体共有の際に児童の発言をつなげたり、問い返しをして深めたりすることができていなかった。
・全体的に教師主導で授業が進み、児童の主体性を引き出すことができていなかった。
・目的意識やワクワク感を持たせることが弱かった。

☆３年生でこれから取り組んでいきたいこと

＊児童の発言をつなげたり、問い返しをしたりして児童の思考を深める。
＊児童が主体的に学習を進められるように学習リーダーを活用する。
＊日常生活と問題を結び付け、目的意識やワクワク感を持たせる。